



神戸市立医療センター中央市民病院 リハビリテーション技術部

レジデント制度概要 ver.1.4

2025/05/17 ver1.0

05/19 ver1.1

05/20 ver1.2

05/22 ver1.3

2026/05/25 ver1.4



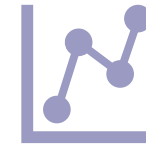
0. 本資料の流れ

目次

1. レジデント制度の**総論**



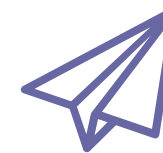
2. レジデント制度での**臨床と教育**



3. レジデント制度と**研究**



4. レジデント制度修了生の**進路**





1. レジデント制度の総論

目次

1. レジデント制度の総論



2. レジデント制度での臨床と教育

3. レジデント制度と研究

4. レジデント制度修了生の進路



1. レジデント制度の総論

当院のレジデント制度の理念と目標

1. リハビリテーションレジデントプログラムの理念は、**若手の療法士に良好な臨床研修の場を提供**することにある。
2. リハビリテーションレジデントプログラムの教育目標は、急性期医療において多くの臨床経験を積み、リスク管理およびクリニカルリーズニングのスキルを高めるとともに、**効果的かつ効率的なリハビリテーションを自立して実施する能力を涵養**することである。
3. リハビリテーションレジデントの到達目標は下記の6つである。
 - ① 社会から求められる、人格に優れた療法士となること。
 - ② 患者側に立って思考・行動する姿勢を持つこと。
 - ③ 他の医療スタッフと協調しチーム医療を円滑に遂行できること。
 - ④ 常に医療の安全に配慮できること。
 - ⑤ 幅広いプライマリケアの診療能力(態度・技能・知識)を修得すること。
 - ⑥ 問題を発見・解決するとともに、その成果を社会に発信することができる。

これらの目標を達成するために当院の各部署と連携し、リハビリテーション部門全体として教育に取り組み、メンターは自覚と責任をもってリハビリテーションレジデントを指導し、知識・技術レベルに応じた責任を課す。



1. レジデント制度の総論

当院のレジデント制度のカリキュラム



1. **2年間にわたる高度急性期リハビリテーション診療の研修** (大学院進学の場合は期間の延長が可能)



2. 循環器内科・心臓血管外科医師と看護部と連携した**包括的心臓リハビリテーション研修** (PT)



3. リハビリテーション技術部スタッフによる**急性期リハビリテーション・リスク管理に関する教育講演**



4. 他部署 (医師・看護部・薬剤部等) との**合同研修**



5. 各診療科の医師による**高度急性期医療に関する定期的な教育講演**



6. 脳神経内科・脳神経外科・整形外科の医師との**合同リハビリテーションカンファレンス**



7. 定期的な**症例検討会**



1. レジデント制度の総論

当院のレジデント制度の研修ラダー

到達レベル	1年目		2年目	
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①医療職として必要な基本姿勢と態度について理解し、実践する。 ②指導者の付き添いのもと、一般病棟の患者の治療を実践できる。 ③脳血管疾患・運動器疾患における基本的知識・技術を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①1人で一般病棟の患者の治療を実践できる。 ②常に医療職として必要な基本姿勢と態度自覚した行動がとれる。 ③呼吸器疾患・循環器疾患・がん疾患における基本的知識・技術を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①後輩への教育に参加できる。 ②指導者の付き添いのもと、重症部門の患者の治療を実践できる。 ③各疾患の知識・技術を臨床に応用できる。 ④チーム医療を理解し、役割を果たすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①1人で重症部門の患者の治療を実施できる。 ②合併症のある重症患者に対し、各疾患の知識・技術を臨床に応用できる。 ③チーム内の信頼関係を保ち調整できる。
人間関係能力	<ul style="list-style-type: none"> ①社会人としてのマナーを習得する。 ②指導者などに必要なことを報告・連絡・相談ができる。 ③同僚や多職種の人たちと適切にコミュニケーションがとれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①医療人としての基本的な対応ができる。 ②指導者などに的確な報告や情報提供ができる。 ③医師・看護師、患者や家族と適切にコミュニケーションがとれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①患者・家族に対し、医療チームの一員としての対応法を理解し、対応できる。 ②後輩の指導に関わることができる。 ③周囲に配慮し、適切な援助を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①重症部門の患者・家族に対し、医療チームの一員として対応できる。
リスク管理能力	<ul style="list-style-type: none"> ①リハビリテーションにおける安全対策を理解することができる。 ②一般病棟患者の危険を予測し、指導者のもと、安全対策をたてることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①リハビリテーションにおける安全対策を実践できる。 ②一般病棟の患者の危険を予測し、1人で安全対策を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①重症部門の患者の危険を予測し、指導者のもと、安全対策を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①重症部門の患者の危険を予測し、1人で安全対策を立てることができる。
リハビリ実践能力	<ul style="list-style-type: none"> ①マニュアルを活用し、助言を受けながら、正確に業務を遂行できる。 ②指導者のもと、一般病棟の患者の治療を実践できる。 ③カンファレンス等で積極的に質問できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①1人で正確に業務を遂行できる。 ②1人で一般病棟の患者の治療を実践できる。 ③指導者のもと、カンファレンス等で症例発表ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①指導者のもと、重症部門の患者の治療を実施できる。 ②1人でカンファレンス等で症例発表ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①1人で重症部門の患者の治療を実施できる。 ②カンファレンス等で積極的に自分の意見を言うことができる。
教育・研究能力	<ul style="list-style-type: none"> ①リハビリにおける基礎知識を理解する。 ②院内の勉強会に積極的に参加し、自己学習できる。 ③自分の担当患者についてまとめ、症例報告を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各疾患の基礎知識を理解する。 ②院外の勉強会・学会に積極的に参加し、自己学習できる。 ③新人発表を行える。 	<ul style="list-style-type: none"> ①後輩への教育に参加できる。 ②自己の課題を発見し、資源を活用し、課題に積極的に取り組むことができる。 ③臨床業務指導を行える。 	<ul style="list-style-type: none"> ①後輩の研修・症例報告に対するアドバイスを行うことができる。 ②自己に課題に対して学会発表を行える。



1. レジデント制度の総論

当院のレジデント制度の研修スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
共通研修	初期研修					地域連携講演会						レジデントフォーラム キャリアデザイン研修	
			班症例検討会/救急カート点検/緊急時シミュレーション/メンターミーティング/レジデント・フェロー研修会/ RST研修会/その他院内研修										
1年目 Jr/ フェロー	初期研修/接遇研修		ローテーション・新患対応開始 フェロー自立			Jr自立					心リハ引き継ぎ		
	シャドーイング Sr患者引き継ぎ		回復期リハ見学(1-2回)										
			整形外科・心臓血管外科ローテ時に手術見学										
					PT新人発表会準備					PT新人発表会			
2年目 Sr/ フェロー	訪問リハビリ研修/通所リハビリ研修(各1-3回)												
	心臓リハビリ研修(外来・入院)									心リハ引き継ぎ			



1. レジデント制度の総論

当院のレジデント制度 オリエンテーション(例)

月/日	9:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
4/1	新人職員研修		倫理研修 サービス規定	院内案内 事務手続き	診療報酬について	教育体制について	
4/2	専従見学	昼食	マニュアル研修	カルテ研修	感染管理	医療安全	
4/3	専従見学	昼食	カルテ研修		マニュアル研修	医療安全	
4/6	専従見学	昼食	専従見学			災害研修	自己紹介
4/7	Srレジデント帯同	昼食	Srレジデント帯同			評価研修	自己紹介
4/8	専従見学	昼食	専従見学			医療安全(車椅子)	自己紹介
4/9	Srレジデント帯同	昼食	Srレジデント帯同			医療安全(移乗研修)	
4/10	Srレジデント帯同	昼食	Srレジデント帯同			委員会・部門紹介	
4/13	Srレジデント帯同	昼食	Srレジデント帯同			評価研修	
4/14	Srレジデント帯同	昼食	Srレジデント帯同			評価研修(OSCE)	



1. レジデント制度の総論

当院の特徴とレジデント制度

768床

高度急性期病院（三次救急医療機関）
神戸市の「最後の砦」

Dr 364名

Ns 1194名

PT・OT・ST 112名

診療科：34

循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科
脳神経内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科
腫瘍内科、緩和ケア内科、感染症科、精神・神経科
小児科、新生児科、皮膚科、外科・移植外科、乳腺外科
心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科
形成外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科
頭頸部外科、麻酔科、歯科・歯科口腔外科、病理診断科
放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科
救急科、総合内科

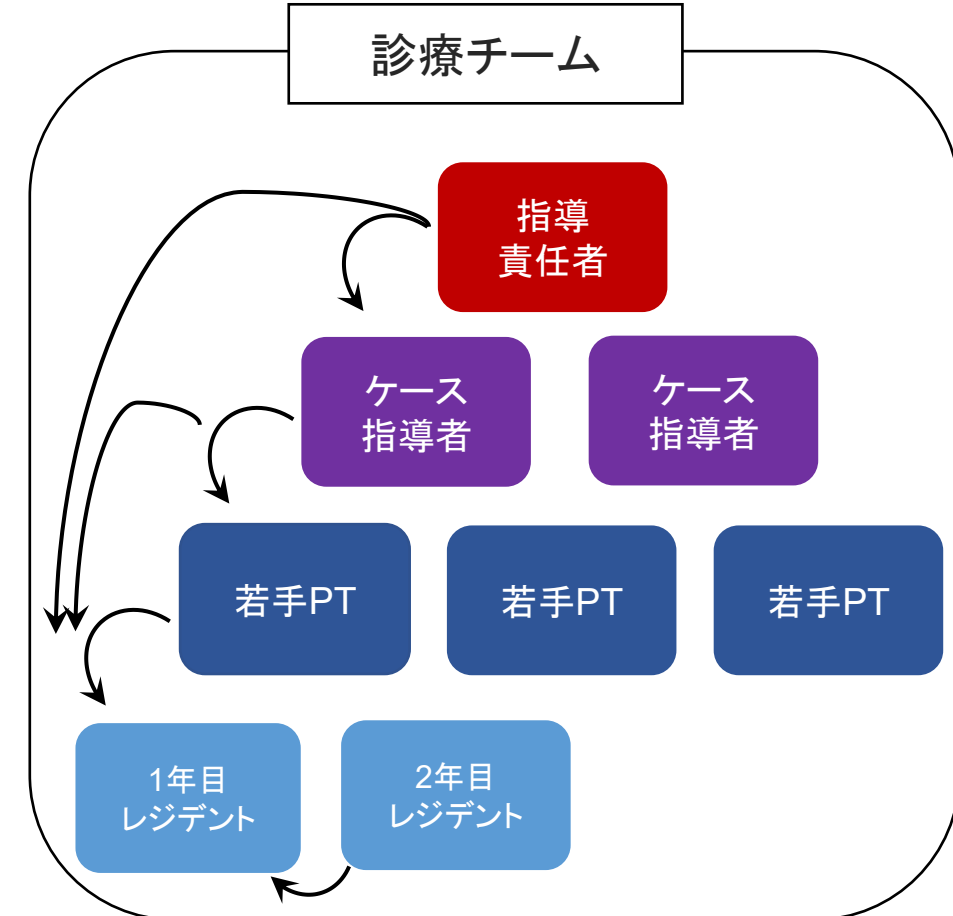




1. レジデント制度の総論

当院のレジデント制度の内容と体制

事項	要件	備考	
応募資格	理学療法士免許を有するもの、免許取得見込みのもの		
人員配置	レジデントプログラムディレクター（認定理学療法士以上）およびメンター		
期間	1～2年	新卒については2年間が望ましい。フェローシップは別規定	
処遇	職員と同等	各施設の条件から最小ライン	
基準	日本理学療法士協会新人教育プログラムに準ずる		
研修内容			
実務研修 (臨床)	患者の評価治療	25～30時間/週	
	メンターと共に患者を治療する ("mentored session")	5時間/週	
	チーム医療に参加する(カンファレンス、回診等)	5時間/週	
		領域別疾患経験数(主担当)の基準 一般病棟、救急病棟、ICU、心臓リハビリ等 脳血管疾患 : 60例/年 運動器疾患 : 60例/年 呼吸器疾患 : 30例/年 心大血管疾患 : 30例/年 がん疾患 : 20例/年 *がん研修受講者のみ *定期的に臨床経験数の報告を行う	
講義研修 (教育)	1. レクチャー 2. 論文抄読会 (Journal Club) 3. 症例検討会 4. 研究セミナー 5. Problem Learning Discussions 6. カルテ記載 (サマリなどを早く正確に書ける能力を養う) 7. 病院経営・診療報酬研修会	5時間/週	病院のインフラ(研修医オリエンテーション、看護部合同研修、院内セミナー等)を活用する
学術研修 (研究)	1. 症例報告 2. 学会発表 3. 論文投稿	2回/年	
制度の 自己評価	レジデントに対するメンターの評価 メンターに対するレジデントの評価 レジデントプログラムディレクターに対するレジデントの評価		
到達目標	認定理学療法士試験の合格、レジデント共通の定期筆記試験および口頭試験の実施		
指導体制	専門理学療法士、認定理学療法士による指導		
外部評価	外部評価(理学療法士協会または制度実施病院による相互評価) 目標の達成率・試験・カリキュラムの実績の評価		



平成28年 文部科学省 診療参加型臨床実習実施ガイドライン

主に臨床・教育・研究の3つで構成されている**医師の教育体制**を参考にした屋根瓦の体制



1. レジデント制度の総論

当院のレジデントメンバー (2025年度)



2024年度入職
PT 11名
OT 2名
ST 2名



2025年度入職
PT 18名
OT 2名
ST 2名

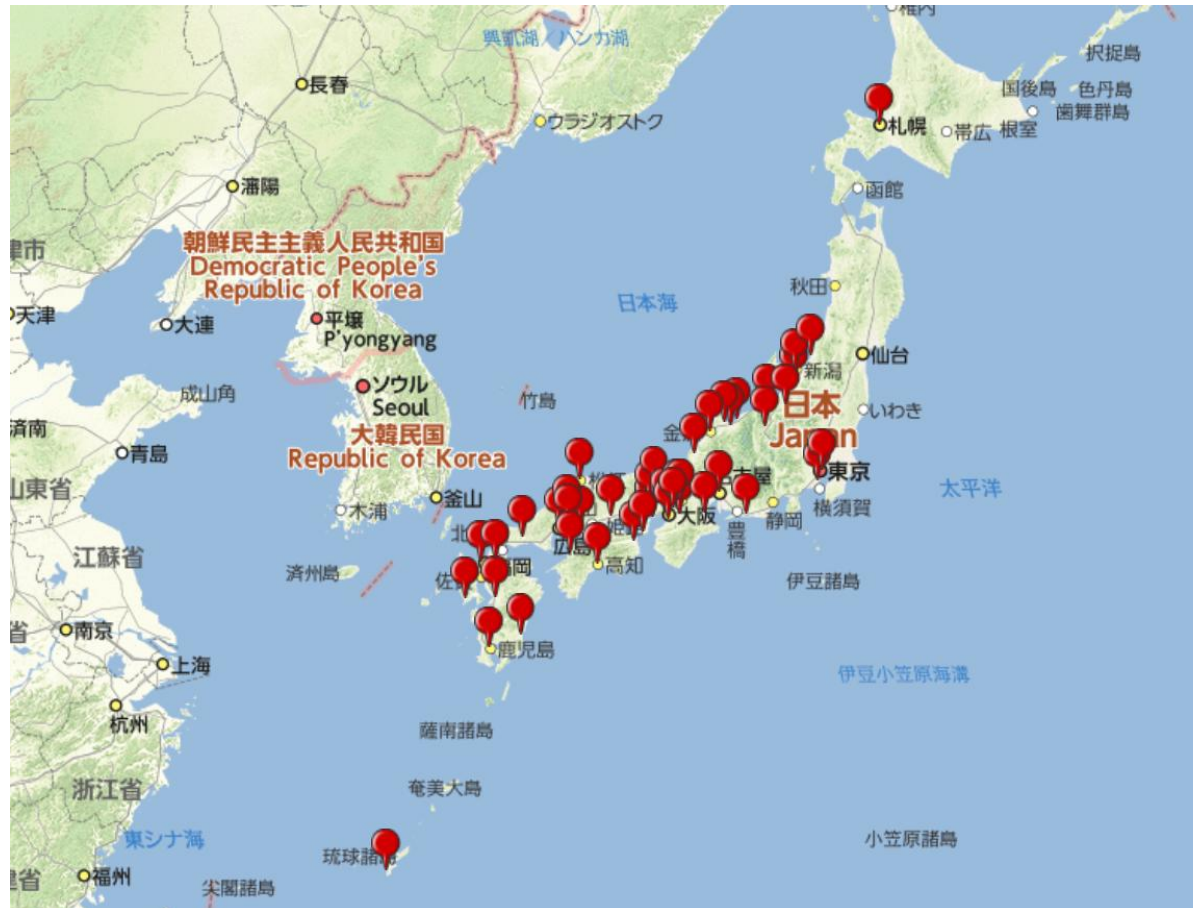
新卒の療法士のみならず **経験者・大学院生・大学院修了者** も含む、**出身地も全国様々** なメンバー



1. レジデント制度の総論

当院のレジデントメンバー (2025年度)

リハビリテーション技術部スタッフの出身地



新卒の療法士のみならず **経験者・大学院生・大学院修了者** も含む、**出身地も全国様々なメンバー**



目次

1. レジデント制度の総論

2. レジデント制度での臨床と教育



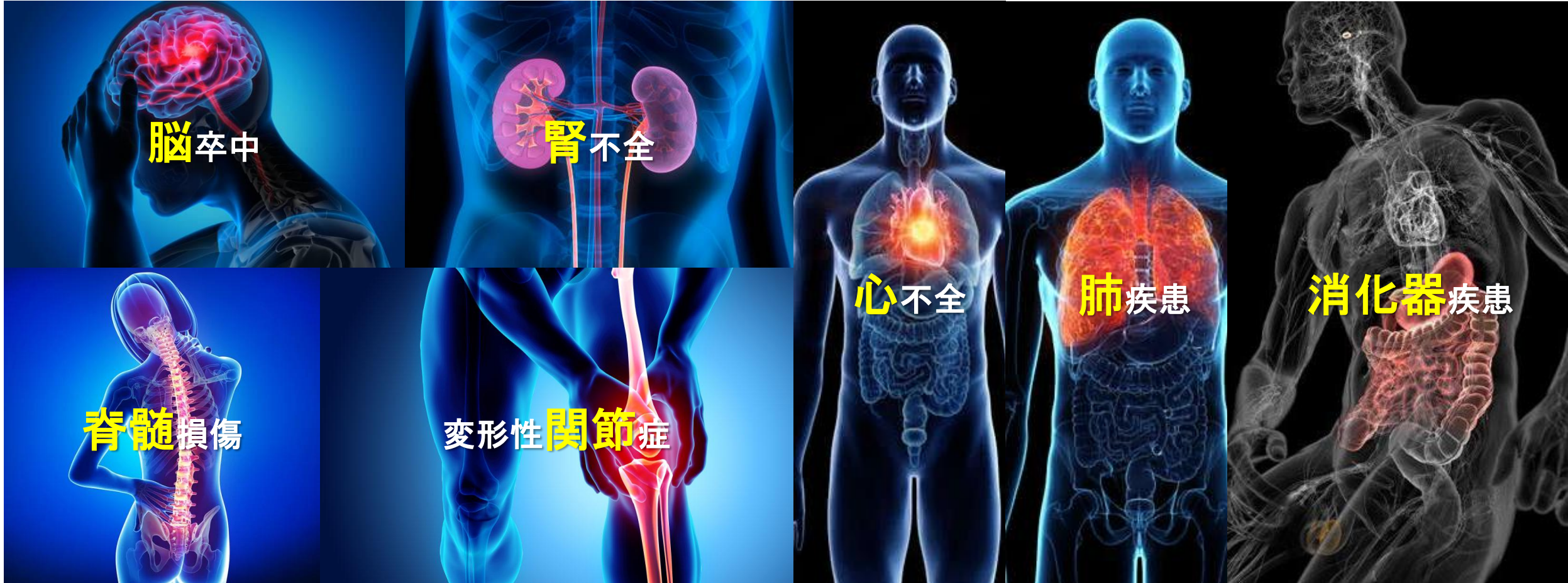
3. レジデント制度と研究

4. レジデント制度修了生の進路



2. レジデント制度での臨床と教育

2年間にわたる高度急性期リハビリテーション診療と対象疾患

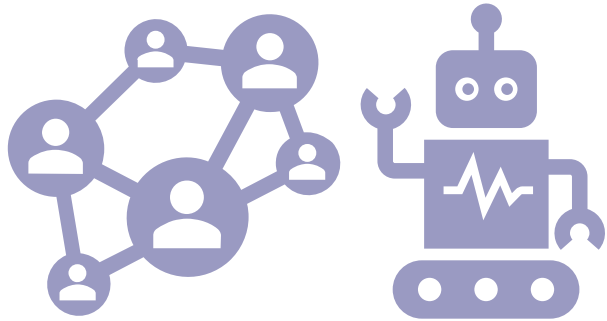


Multimorbidity (1人の患者が複数の疾患を併存している状態) の時代
PTは2年間で**500~600の症例**を担当



2. レジデント制度での臨床と教育

2年間にわたる高度急性期リハビリテーション診療を充実させるために



- **RehaSta version2®**による担当症例の特徴分析・コントロール
- 部署独自開発の**一括患者情報閲覧ツール**を活用することによる業務効率化
- 各領域を得意とした療法士による**情報収集項目のミニмумスタンダード**による業務効率化
- **Robotic Process Automation**を活用した診療業務以外の自動化



担当対象者数12～18名/日 (+入院・外来心臓リハビリテーション)の研修スケジュールの到達

特に急性期においては**診療時間の調整**や**急な病態の変化**に直面することが多い
それを**自力で解決できるスキルとマネジメント**を身に着ける

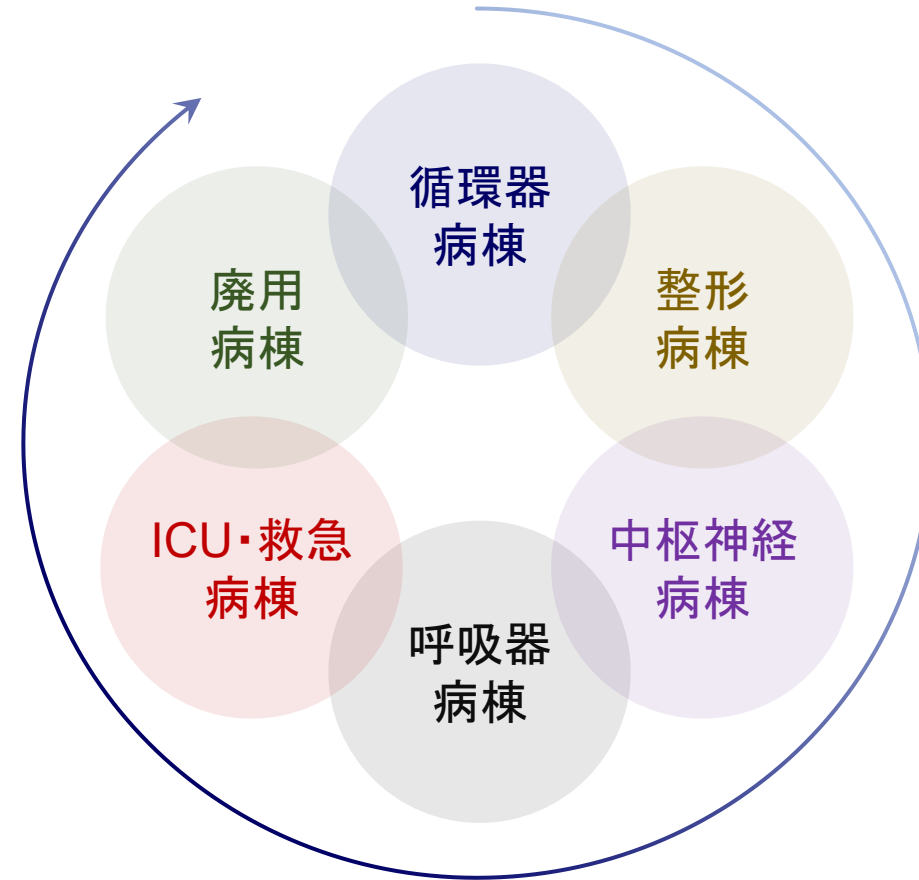


2. レジデント制度での臨床と教育

2年間にわたる高度急性期リハビリテーション診療と実際

(PT)

管理担当	病棟	リーダー	専従	担当	シニアレジデント (フリー)	ジュニアレジデント	
主査	7 / 9階	9W	1名	9名	18名	3名	
							9E
		7W	1名				2名
							7E
主査	6 / 8階	8W	1名	1名			
				8E	1名		
		6W	1名	1名			
				6E	1名		
主査	5階	SCU	1名	1名			
				5W	1名		
				5E	1名		
主査	4階	G-HCU/ICU	1名	2名			
				C-HCU	1名		
		4W		2名			
		4E		1名			
主査	3階	3W/NICU/GCU	1名	1名			
				3E	1名		
主査	救命救急センター	1名	3名				
主査	外来/5S	1名	2名			3名	



各病棟には病棟管理する専従療法士が配置しており密な病態・介入内容の相談が可能
また2か月間で担当病棟がローテーションすることで網羅的に各病態・介入内容を経験



2. レジデント制度での臨床と教育

2年間にわたる高度急性期リハビリテーション診療と実際



疾病発症直後の超急性期 (Intensive Care Unit, ICU) のリスク管理やリハビリテーションを実臨床から学ぶ
また、ICUから自宅退院・転院までの流れを医師や看護師、地域連携のスタッフらと協働しながら学ぶ



2. レジデント制度での臨床と教育

2年間にわたる高度急性期リハビリテーション診療と実際

臨床前の相談・指導



各病棟リハビリカンファレンス



多職種との密なコミュニケーション



多職種・リハビリテーション技術部スタッフ全員でさまざまな意見を出し合える環境
急性期の目まぐるしい変化に対応するためのより多面的な視点で適切なリハビリテーションを導く能力を養う



2. レジデント制度での臨床と教育 教育の実際

PTレジデント業務チェックシート			
		氏名:	
		シャドー:	
		メンター:	
業務関連	自己評価	指導者評価	備考
カルテからの情報収集	1 2 3	1 2 3	血液データ、画像、経過表などから情報収集ができる
カルテ記載	1 2 3	1 2 3	適切にカルテ記載ができる
リハビリ総合実施計画書の運用	1 2 3	1 2 3	計画書を作成し、提出できる カルテや掲示板の記載も含む
実施単位やリハ総合実施計画料の算定	1 2 3	1 2 3	適切に単位等が算定できる
患者予定の入力	1 2 3	1 2 3	適切に予定を入力できる
評価用紙の運用	1 2 3	1 2 3	評価用紙を記載し、提出できる
サマリー記載、運用	1 2 3	1 2 3	サマリーを記載し、提出できる
廃用書類の作成	1 2 3	1 2 3	書類を適切に期限までに作成できる
評価関連	自己評価	指導者評価	備考
SPPB	1 2 3	1 2 3	正確に評価ができる
握力	1 2 3	1 2 3	
膝伸展筋力	1 2 3	1 2 3	
MRCスコア	1 2 3	1 2 3	
6分間歩行テスト	1 2 3	1 2 3	
EQ5D	1 2 3	1 2 3	
FIMの記載	1 2 3	1 2 3	
病前の生活情報の記載 (FIMテンプレート)	1 2 3	1 2 3	
医療安全管理	自己評価	指導者評価	備考
現状復帰	1 2 3	1 2 3	ミトン・抑制帯・離床センサー・オーバーテーブル固定
意識・バイタルサインの評価	1 2 3	1 2 3	異常値の解釈と原因分析、測定手技の確立
リハビリ中のルート管理	1 2 3	1 2 3	刺入部と固定の確認、長さやゆとり、事故除去予防
リハビリ中の転倒転落予防	1 2 3	1 2 3	転倒転落のリスク因子を把握、転倒転落の予防策
トランスファー	1 2 3	1 2 3	監視～軽介助レベルの患者を安全に
インシデント報告	1 2 3	1 2 3	インシデント発生時の報告、その後の対応
感染管理	自己評価	指導者評価	備考
手指衛生	1 2 3	1 2 3	5つのタイミングを理解し、リハビリ中に適切に実施
PPEの着脱	1 2 3	1 2 3	清潔・不潔を理解し、リハビリ中に適切に実施、感染BOXの把握
フリーコメント	<p>評価基準</p> <p>1 多くの助言が必要</p> <p>2 少しの助言が必要</p> <p>3 一人で助言なく実施できる</p>		





2. レジデント制度での臨床と教育

レジデント1年目 院外での回復期リハビリテーション研修

発症直後



発症2週間後



リハビリ転院



発症3ヶ月後



地方独立行政法人 神戸市民病院機構
神戸市立医療センター中央市民病院
Kobe City Center General Hospital



一般財団法人 神戸マリナーズ厚生会
ポートアイランド病院

自らが**急性期**で治療していた対象者の**回復期**での経過・リハビリテーションを学ぶ



2. レジデント制度での臨床と教育

レジデント2年目 院外での生活期リハビリテーション研修



自らが**急性期**で治療していた対象者の**生活期**での経過・リハビリテーションを学ぶ



2. レジデント制度での臨床と教育

充実した各方面・部署での研修プログラム

部署研修

日時：2025/4/24（木曜）
時間：17時～17時30分
場所：3Fリハビリ室

院内セラピスト研修

BI・FIM研修

OT 早川 貴行

本日の目標①

BI・FIM概要と評価方法を理解すること

院内研修 回 NCM講演会

栄養 超基本2025

日時：5月15日（木）18時～19時
場所：講堂+Web同時配信
講師：NSTChairman 伊藤医師

(web配信の詳細はメールALL もしくは デスナツをご確認下さい)

2025年度NCM講演会 第1弾は
伊藤医師による栄養超基本です。
栄養療法の基礎について理解を深めましょう！

次回は・・・6月20日
経腸栄養について

主催 NST
(尾鼻：39586)

神戸医療産業都市推進機構支援事業

医療DX人材育成プログラム 参加者募集

「医療DX人材育成プログラム」は、医療機関においてデータ駆動型研究および施設決定を推進するために、レクチャーやワークショップを通して幅広い役割を担う人材を育成し、データ活用能力を組織全体で高めることを目的としたプログラムです。

職種を問わずご参加いただけますので、興味のある方はぜひお申込みください。

対象	スケジュール(予定)
病院運営に携わる全ての職種の方 ご本人におススメ	5/9 第1回レクチャー:プログラムの概要紹介 (ハイブリッド開催) 5/16 第2回レクチャー:データの収集と整形 5/22 第3回レクチャー:データの解析と解釈(1)記述 6/2～ 第1～3回レクチャーのオンデマンド視聴開始
参加資格	6/14 第1回ワークショップ (会場:中央市民病院1階 講堂) 6/26 第4回レクチャー:データの解析と解釈(2)予測 7/4 第5回レクチャー:データの解析と解釈(3)介入効果の測定 7/14～ 第4～5回レクチャーのオンデマンド視聴開始 第2回データ分析技術コース:可視化、検定、予測モデルなど 8/30 第2回ワークショップ (会場:中央市民病院1階 講堂) 9/19 外部講師による講演会 (会場:中央市民病院1階 講堂)
申込方法	以下のフォームより必要事項をご入力の上、送信ください。 https://forms.gle/fxxfVgEyN5568UyR6
お問合せ	臨床研究推進センター 研究推進部門 学術研究推進部 gcrce@kcho.jp / 内線3344 (スマホからは73344)

主催:神戸市立医療センター中央市民病院 臨床研究推進センター
共催:同 情報企画課・医事課・QIワーキンググループ

院外研修

神戸市立医療センター中央市民病院 リハビリテーション技術部・地域医療推進課 主催

リハビリテーション 地域連携講演会

時下、先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
この度、地域連携講演会を下記の要領で開催いたします。
つきましては、ご多忙中とは存じますが、何卒ご出席賜りますようお願い申し上げます。

日時 2025年3月5日(木) 18:30～19:45 (受付 18:00～)

場所 兵庫医科大学 オクタホール 神戸キャンパス ※480名収容 オンライン配信はありません。

講演1	講演2
演題 マルチモービリティ時代を切り開く地域一体型リハビリテーション 講師 高橋 哲也 先生 順天堂大学 保健医療学部 理学療法学科 副学科長	演題 循環器診療とリハビリテーションの未来：最先端テクノロジーが変える地域医療 講師 代田 浩之 先生 順天堂大学 学長

参加費 講演会:無料
懇親会:2000円

懇親会 兵庫医科大学 レストラン 20:00～21:30
是非懇親会もご参加ください。

お問い合わせ 神戸市立医療センター中央市民病院 リハビリテーション技術部
TEL:078-302-4321 (岩田健太郎 病)
E-mail: kcho.rehabilitation.2024@gmail.com

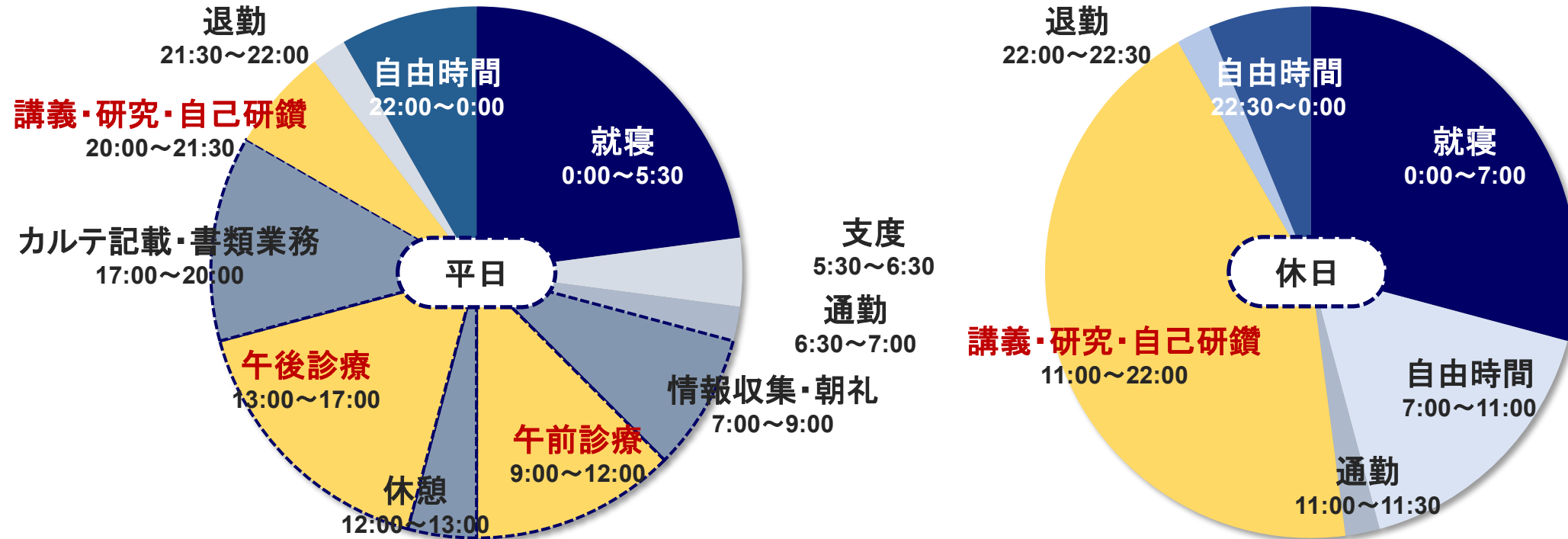
お申し込みはこちら

当院およびリハビリテーション技術部は積極的な研修プログラムを用意・参加することで日々アップデートされる最新の高度急性期医療に対応し得る人材の育成に努めている



2. レジデント制度での臨床と教育

充実したレジデント生活 (レジデント2年目+大学院修士課程の一例)



臨床と教育，研究に充実したスケジュール
忙しい日々だが，毎日成長を感じることができる



2. レジデント制度での臨床と教育

学生の臨床実習について

集中治療領域における実習生指導の様子



多くの実習生とともに切磋琢磨



実習中のスケジュール

8:45~9:00	朝礼
9:00~12:00	午前診療
12:00~13:00	休憩
13:00~16:30	午後診療
16:30~17:30	自己研鑽

見学・診療補助の領域

1Fエリア	E-ICU・CCU・救急疾患・精神科疾患
4Fエリア	G-ICU・G-HCU・C-HCU・循環器疾患・腎疾患
5Fエリア	SCU・脳血管疾患・脳腫瘍・神経難病・末梢神経障害
6/8Fエリア	整形外科疾患・外科疾患・がん
7Fエリア	呼吸器疾患・泌尿器疾患
9Fエリア	消化器疾患・皮膚疾患

実習生の出身大学

新潟医療福祉大学	神戸大学
神戸学院大学	兵庫医科大学
甲南女子大学	姫路獨協大学
京都大学	大分大学
大阪人間科学大学	北海道文教大学
川崎医療福祉大学	藍野大学
広島大学	県立広島大学 etc



目次

1. レジデント制度の総論

2. レジデント制度での臨床と教育

3. レジデント制度と**研究**



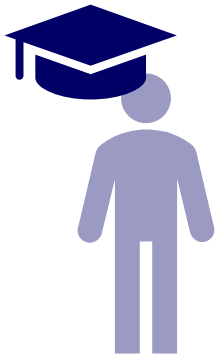
4. レジデント制度修了生の進路



3. レジデント制度と研究

リハビリテーション技術部所属の大学院進学者・修了者

2025年度



- 大学院進学中
 - 修士課程 **10名**
 - 博士課程 **2名**
- 修士号
 - **18名**
- 博士号
 - **5名**
- 大学・大学院での臨床講師
 - **8名**



神戸大学

札幌医科大学
SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY

看護・医療・リハビリ・栄養・スポーツ・福祉の総合大学

新潟医療福祉大学

京都大学
KYOTO UNIVERSITY

北海道文教大学



兵庫医科大学



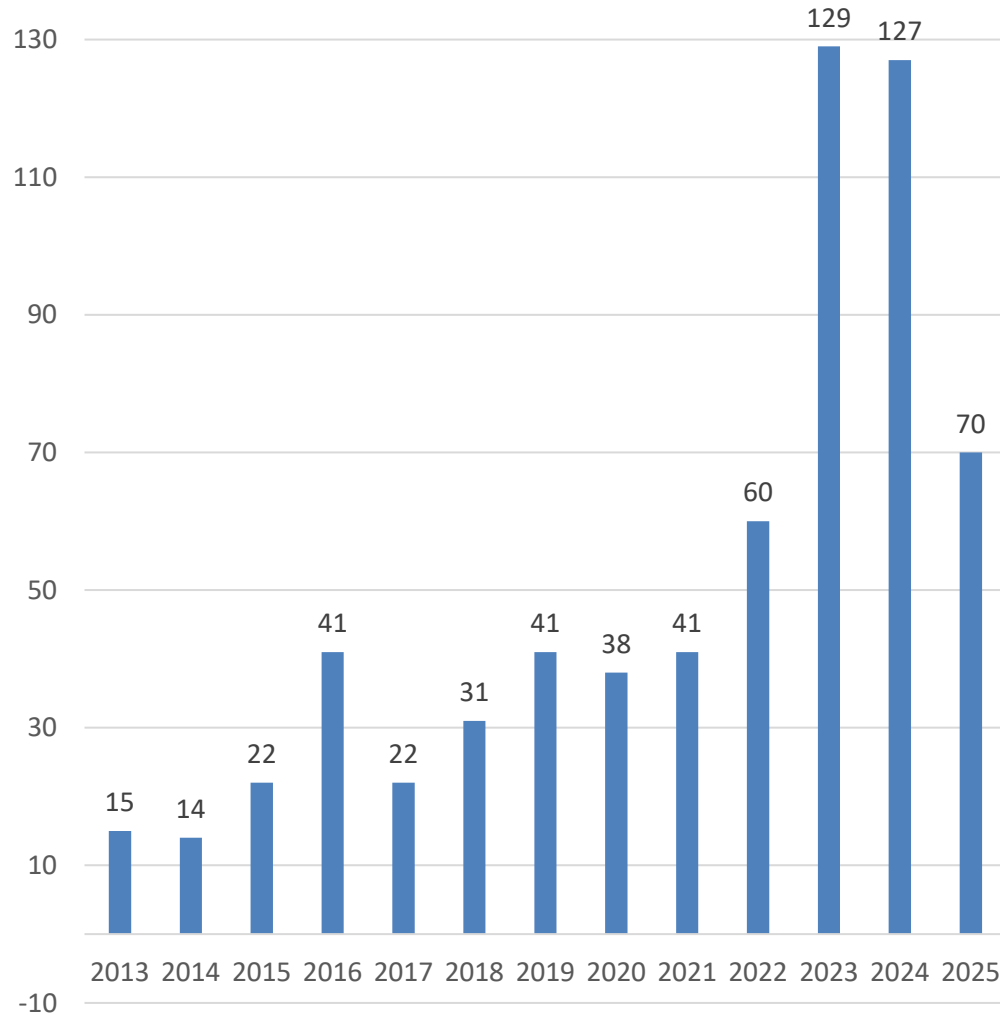
基礎・臨床研究、症例報告を行う際の相談先の充実



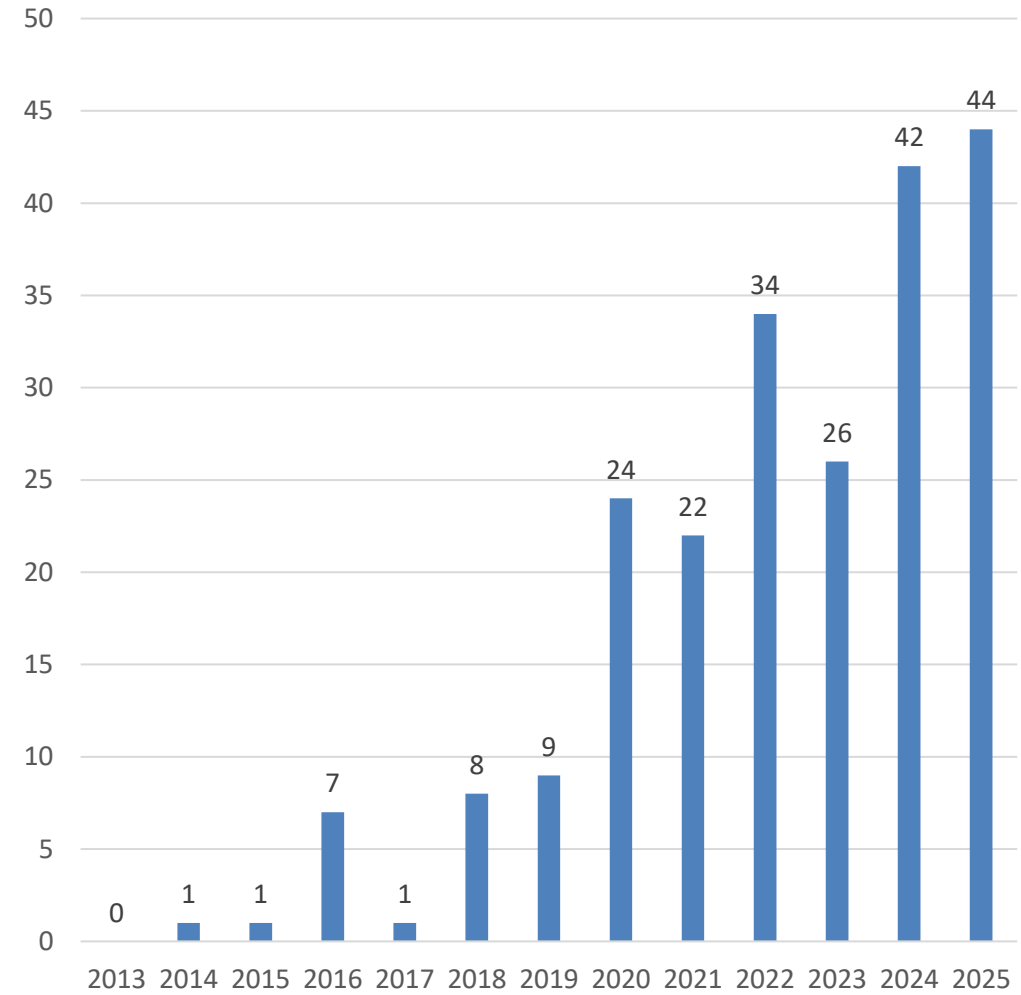
3. レジデント制度と研究

リハビリテーション部門の実績(2013-2025)

学会発表数



論文執筆数





3. レジデント制度と研究

リハビリテーション部門 獲得公的研究費の実績報告

獲得研究名	獲得年度 (期間)	研究課題名	主任・分 担	獲得時の所属	主任研究者の氏名・所属 ※分担の場合のみ記載
日本理学療法士協会 予防理学療法 法の確立を目的とした大規模臨床研 究に対する研究助成	平成29年	内部障害合併患者の急性期病院退院後 の再入院予防を目的とした標準化在宅理 学療法プログラムの構築 ～遠隔診療を用 いた急性期病院・地域機関の一体化～	主任	循環器内科	北井 豪
片上臨床研究助成金事業	令和2年	ロボットリハ	主任	リハビリテーション科	幸原 伸夫
片上臨床研究助成金事業	令和3年	ロボットリハ	主任	リハビリテーション科	幸原 伸夫
経済産業省 成長型中小企業等研 究開発支援事業 (Go-Tech 事 業)	令和3年	循環器病患者の運動機能回復を目的とし た治療支援機器の研究開発	分担	病院長	幸原 伸夫
シスメックス委託開発費	令和3年	AIリハ	主任	病院長	木原 康樹
科学研究費補助金-奨励研究	令和3年	バイオマーカーの創出とその臨床応用によるリ ハビリテーションの革新	主任	リハビリテーション技術部	高村 大祐
神戸医療産業都市研究開発補助金	令和5年	脳循環に着目した早期リハビリテーションにお ける離床の安全基準の作成と検証	主任	リハビリテーション科	幸原 伸夫
科学研究費補助金 - 挑戦的研究(萌芽)	令和7年	重症集中治療患者の脳保護を目的とした 新たなリハビリテーション指標の開発	分担	順天堂大学	高橋哲也
科学研究費補助金-若手研究	令和8年	心不全患者の認知機能低下機序解明と 脳保護リハビリテーション戦略	主任	リハビリテーション技術部	岩田 健太郎

※リストの作成対象は～令和8年度4月1日です。



3. レジデント制度と研究

当院の研究環境



病院図書館

24時間利用可能
個室ブースあり



南館ゼミ室

24時間利用可能
統計解析ソフトや書籍あり

令和4年度
第2回 臨床研究推進センター講演会

RIKEN

テーマ
RIKENの世界
計算科学研究センター
～計算の計算による計算のための科学～

講師(予定)
計算科学研究センター センター長 松岡 聡 氏
HPC/AI駆動型医療プラットフォーム部門
部門長 奥野 恭史 氏
複雑現象統一の解法研究チーム
チームリーダー 坪倉 誠 氏

松岡 聡
センター長

日時 令和4年 8月2日(火) 18:00-
場所 中央市民病院本階1階 講堂およびWeb開催
※ Webでの参加をご希望の方は7月28日(木)までに、
臨床研究受付担当 rinken@kcho.jp までお申し込みください。
どなたでもご参加いただけます!

主催 神戸市立医療センター中央市民病院 臨床研究推進センター
TEL: 078-302-4321 (代表)

臨床研究推進センター

研究の相談可能
定期的なセミナーあり

この他にもリハビリテーションに関する多くの書籍があるスタッフルームも
研究するにはもってこいの環境



3. レジデント制度と研究

学会参加と学会発表、その支援



大学院の所属は関係なく、**各レジデントがさまざまな学会大会・研究会でケースレポートや臨床研究を報告**
学会大会の参加費や交通費、ポスター印刷等の費用は当院が一部補助



4. レジデント制度修了生の進路

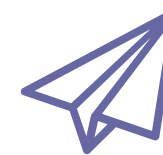
目次

1. レジデント制度の総論

2. レジデント制度での臨床と教育

3. レジデント制度と研究

4. レジデント制度修了生の進路





4. レジデント制度修了生の進路

当院のレジデント制度修了後の進路(2013～2025年度)



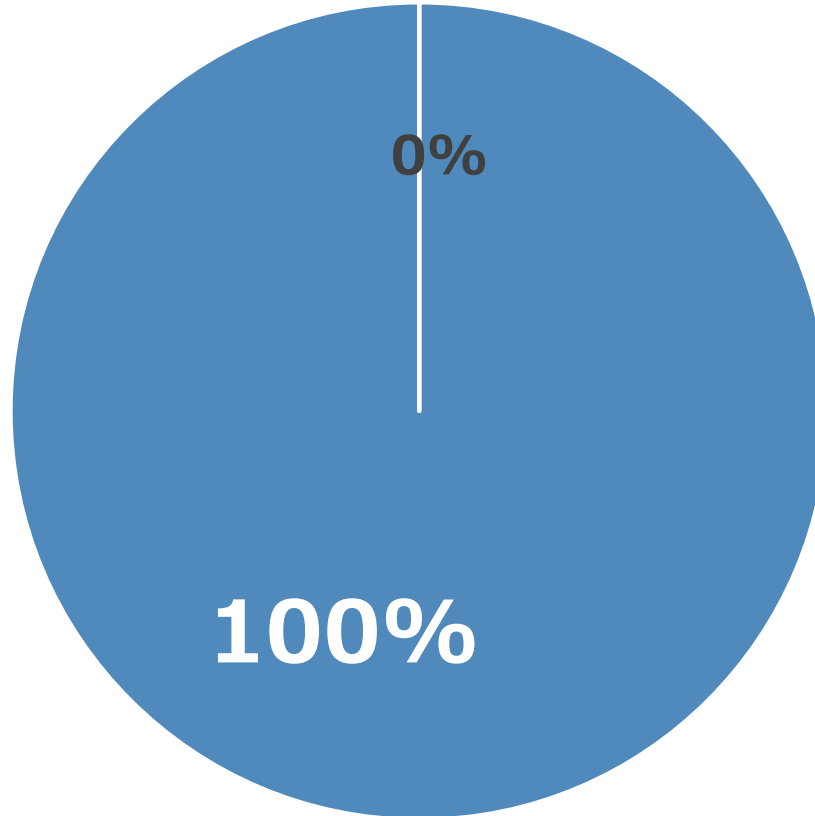
	人数
神戸市立医療センター中央市民病院	33名
急性期病院	40名
回復期病院	42名
クリニック	4名
小児施設	2名
訪問リハビリテーション	9名
スポーツ分野	2名
教員	4名
その他	5名
計	141名



4. レジデント制度修了生の進路

当院のレジデント制度修了生の進路(PT 2013~2025年度)

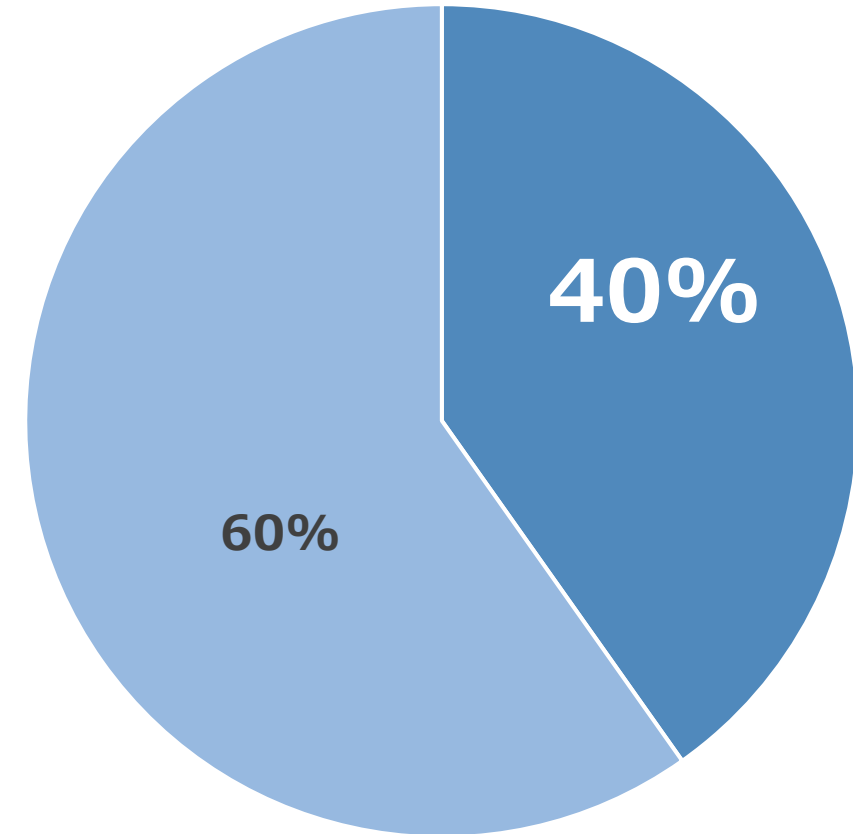
心臓リハビリテーション指導士合格率



■ 合格者 ■ 不合格者

41人受験中41人合格

大学院進学率



■ 大学院進学 ■ 大学院非進学

97人中39人進学



4. レジデント制度修了生の進路

当院のレジデント制度修了後の進路



大学教員



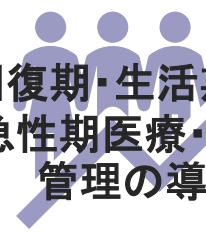
多数の論文執筆



大学院生の研究指導



回復期・生活期での急性期医療・リスク管理の導入



学会発表や講演



他院でのレジデント制度の立ち上げ



信州大学 SHINSHU UNIVERSITY



他院でのICUリハビリテーションの拡大



当院での病棟専従

当院のレジデント修了生は様々な領域で活躍中
次世代のリーダーを担う人材を輩出している



4. レジデント制度修了生の進路

当院のレジデント制度修了生の紹介

2014年度修了



現職: 神戸市立医療センター中央市民病院

- 当院の手外科の急性期・外来リハビリテーションの牽引
- 学会発表

2021年度修了



現職: 大須病院

- 高度急性期で学んだ心臓リハビリテーション時のリスク管理の回復期での実践
- 回復期での感染対策の教育
- 公認心理士取得に向けた進学

2000年度修了



現職: ツクイ沖縄訪問看護ステーション

- 高度急性期で学んだ多種多様な疾患のリスク管理の在宅での応用
- レジデント制度は「様々な分野で活躍するための入り口」



4. レジデント制度修了生の進路

当院のレジデント制度修了生の紹介

2014年度修了



所属: 神戸市立医療センター中央市民病院

- ICU専従
- 集中治療理学療法士
- JRAT災害支援スタッフとして能登半島地震の被災地で活動

2020年度修了



所属: 信州大学医学部附属病院

- 大学院修士課程修了
- 当院の理学療法評価・カルテ記載方法を大学病院で活用
- 論文執筆 / 国内外の学会発表

2020年度修了



所属: 順天堂大学, 神戸市立医療センター中央市民病院, 神戸大学大学院

- 大学院博士後期課程修了, 現大学教員
- COVID-19・呼吸器外来のリハビリテーションの立ち上げ / DX・RPAの導入貢献
- 論文執筆 / 国内外の学会発表・講演



4. レジデント制度修了生の進路

当院のレジデント制度修了生の紹介

2020年度修了

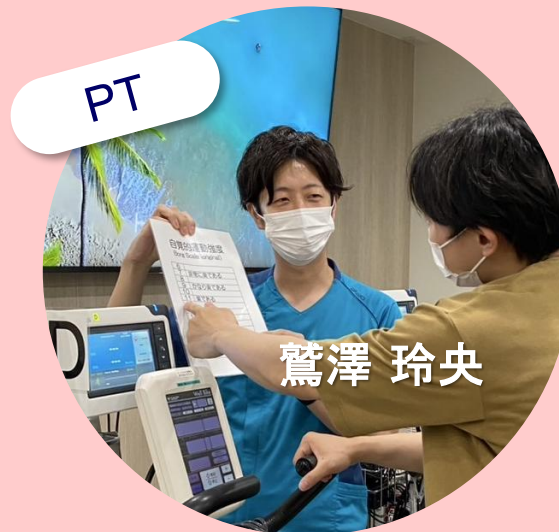


阿部 貴文

所属:新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院

- 大学院修士課程修了
- 現職での早期離床プロトコルの見直し
- レジデント修了後の多数の臨床研究
- 論文執筆 / 学会発表

2022年度修了



鷺澤 玲央

所属:よしだ循環器内科クリニック

- 大学院修士課程修了
- 外来心臓リハビリテーション
- 論文執筆 / 国内外の学会発表

2023年度修了



高橋 朋弥

所属:神戸市立医療センター中央市民病院, 新潟医療福祉大学大学院

- 大学院修士課程修了, 博士後期課程在籍
- 脳卒中センター専従 / 医療DX推進
- 論文執筆 / 国内外の学会発表



4. レジデント制度修了生の進路

当院のレジデント制度修了生の紹介

2023年度修了



富田 創

所属: 神戸リハビリテーション病院, 神戸学院
大学大学院

- 大学院修士課程在籍
- 心臓・呼吸リハビリテーションチーム所属
- 国内外の学会発表

2023年度修了



出口 愛海

所属: 神戸市立医療センター中央市民病院

- 嚙下サポートチームの牽引
- 急性期での言語聴覚療法の実践

2024年度修了



三澤 菜緒

進路: アイルランドに留学

- 母校順天堂大学での学生指導
- レジデント修了後の国際留学



職場を離れて上下関係なく楽しく懇談！

当院のレジデント制度にご興味いただいた皆様を心からご歓迎

2026年度レジデント・フェロー・新入職員歓迎会



2025年度レジデント壮行会





神戸市立医療センター中央市民病院 リハビリテーション技術部

レジデント制度概要 ver.1.4



最後までご覧いただき、ありがとうございました